



国民の森林・国有林

中部森林管理局

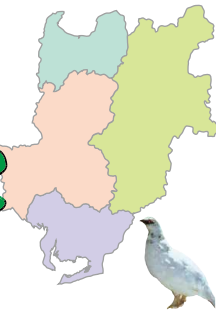
〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎050-3160-6513

<http://rinya.maff.go.jp/chubu/>

広報

中部の森林



左側：長野国有林整備協会 花見会長、中央：中部局 鈴木局長、右側：名古屋造林素材生産事業協会 牧野会長

森林被害対策ボランティア制度に関する協定締結

(P 2 に関連記事)

主な項目	○ 地域から感謝状をいただきました	P 2～3
	○ 施業モデル林現地検討会を開催	P 3
	○ 「生産と造林の一貫作業システム」現地説明会を開催	P 3～4
	○ 各地からのたより	P 4～8
	○ シリーズ「森林官からの便り」	P 8～9
	○ シリーズ「ご当地自慢」	10

森林被害対策ボランティア制度に関する協定締結

「森林整備課」十二月二日、中部森林管理局大会議室において、「中部森林管理局森林被害対策ボランティア制度に関する協定」が、中部森林管理局長と長野県有林森林整備協会会長並びに名古屋造林素材生産事業協会会長との間で、調印・締結されました。



協定書調印の様子 (テレビ取材も)

この協定は、森林病虫獣害及び気象害等(以下「森林被害」という。)の防止に向けボランティアを活用する新たな取組であり、中部森林管理局が管理する六十六万ヘクタールの国有林野において、発生若しくは発生の恐れがある森林



協定書調印後の握手

被害について、迅速かつ円滑に森林被害対策及び予防対策を実施するため、森林被害対策ボランティア制度に関する活動の基本事項を定めたものです。

協定相手方である両協会には、森林被害対策ボランティアとして登録された方を、森林管理署長等からの協力要請に基づき派遣し、収集した情報をとりまとめ、森林管理署長等に報告書を提出していただくものです。

なお、登録された森林被害対策ボランティアの活動内容は、①森林被害の状況把握及び情報収集②山火事発生危険期等における森林パトロール③国民の森林クリーニング(七月)における廃棄物不法投棄予防のためのパトロール④局署に災害対策本部が設置された山火事等の状況把握、二次災害防止のための立入禁止等の応急措置をお願いすることとしています。

中部森林管理局では、「国民の森林」を具現化する取組として、公益重視の管理経営の一層の推進、森林・林業再生への貢献等に向けた現場管理機能の強化並びに林野火災及び不法投棄の防止、ニホンジカや松くい虫、ナラ枯れ等による病虫獣害による被害防止のための取組が必要とされるところであり、迅速かつ円滑に森林被害対策及び予防対策を講じていくこととしています。

地域から 感謝状をいただきました

「東濃署」十一月二日、東濃森林管理署庁舎の移転十周年を記念して、中津川市及び地元協議会等の主催による感謝状の贈呈式と記念植樹が行われました。



記念植樹後の記念写真

式典では、長年にわたり東濃署が地域振興に寄与したとして、中津川市長から中部森林管理局局長へ、付知町まちづくり協議会長から東濃署長へ、地元産ヒノキで額装された感謝状が贈られました。



市から次長へ感謝状が

また、同協議会の早川正人会長から、「東濃署は、明治十九年に付知村橋詰に岐阜大林区署付知派出所として開所されて以来、地場産業の振興及び地域社会の発展に大きく貢献されてきました。いつの時代も森林管理署の存在は、地域住民とともに、「木の町付知」にとつてかけがえのない大きな力となっています。平成十五年に現庁舎が新築され、この度十周年を迎えられました。この機に地域の有志・団体が集まり、感謝の意を表すとともに、森林管理署と地域の連携が更に

伸展することを祈念します。」と、心のこもったお言葉をいただきました。

その後、地元中学生らとともに中津川市の木「コウヤマキ」、旧付知町の木「ヒノキ」、岐阜県の木「イチイ」など四種類五本の苗木が植樹されました。



協議会長から東濃署長へ感謝状が

式典は、国有林内を散策する「つけちハツラツウオーキング」の参加者約百名も出席する中で和やかに行われ、山元中部局次長と間島東濃署長が御礼と感謝の気持ちのご挨拶をさせていただきました。

今回、多くの方々に、地域と東濃署のかかわりを理解していただいたものと思います。当署としましては、引き続き、「ここに森林管理署があつてよかつた」と喜んでいただけるよう、地域の声に耳

を傾けながら業務に取り組んでいこうとの思いを新たにしたいところです。



山元次長と地元中学生

施業モデル林 現地検討会を開催

〔中信署〕 中信森林管理署は、中房国有林での、人工林ヒノキ上層木百九年生、下層木三十年生からなる複層林箇所、低コスト・高効率システムによる育成受光伐作業を行った「施業モデル林」として整備を進めています。

今年度は、森林作業道の新たな技術の普及と定着に向けての取組として、十一月十四日に森杜（もりもり）産業株式会社 田邊 由喜男氏を講師に迎え、現地検討会を行いました。

傾斜約三十度以上の林地では従来、波形線形とスイッチカーブ等により作設してきた森林作業道について、幅二・五メートル以下で縦断勾配を十度前後に一定に抑えて、フォワーダの運搬効率と安全性を高める手法を取り入れた森林作業道の作設方法と、新手法により作設された森林作業道でのフォワーダ「やまびこ」最大積載量三・一トンによる積み込み・運搬・荷下ろし作業などの実演を行いました。

参加した長野県内の行政関係者、林業事業体、NPO、中部局管内の職員約六十名は、パイプ類を利用した排水方法や表土ブロック積、丸太による土留め及びカーブの作設などのポイント毎で説明を受けました。参加者からの湧水地での施工方法やカーブの設置方法及び「やま



森林作業道作設実演

びこ」の操作方法等についての質問に、講師から詳細な作設手法の説明がありました。



フォワーダ「やまびこ」作業実演

この施業モデル林は、今後、高齢級の人工林ヒノキ複層林における低コスト・高効率システムでのモデル箇所として中信地方の国有林、民有林の研修視察の場に活用する考えであり、生産コストや伐採、搬出に伴う保残木の損傷状況等も調査研究していく考えです。

「生産と造林の一貫作業システム」 現地説明会を開催

〔北信署〕 北信署では、中部森林管理局管内では初めてとなる生産（皆伐）から造林（植付）までを一貫作業で発注する

ことによる低コスト作業の実施を、信濃町の霊仙寺山国有林において取り組んでいます。

作業が終盤に差し掛かった十一月十二日、この作業システムのPRと普及を目的に報道関係者等を対象とした説明会を開催しました。

一貫作業システムとは、高性能林業機械による伐採・集材・玉切・運搬という生産システムに、植栽工程が軽減できるコンテナ苗を専用の植栽器具を使用して植え付ける作業を加えた作業システムのことです。複数年にまたがる事業を、単年度で実行することができ、作業の効率化が図られます。



コンテナ苗植付作業取材の様子

国内の人工林の多くが主伐期を迎える時期ですが、材価の低迷や植付・保育に

要するコストが高いこと等から主伐が進まない状況にある中で、この作業システムにより再造林コストの削減が図られることになれば、主伐から植付・保育・主伐といった循環型の林業への誘導が期待できます。



テレビ取材の様子

説明会には、テレビ局や新聞社など六社と、県関係者、一貫作業のコスト分析等について連携して実施している信州大学農学部、事業受注者の長野森林組合を含め二十七名が参加しました。初雪と寒さの中での実施となりましたが、報道関係者からは、普段では見られない高性能林業機械、木質バイオマス利用拡大の取り組みやコンテナ苗に関する具体的な質問が出され、一貫作業システムへの関心の高さがうかがえました。

各地からのたより

山岳ガイド協会研修で

局長が講演

「中信署」十一月十一日に北アルプス上高地にある、上高地治山事業所詰所を講義室に国内最大のガイド団体である公益社団法人日本山岳ガイド協会の研修で、鈴木局長が「上高地の森林と柚人（そまびと）の歴史」と題して講演しました。

当該研修は山岳ガイドの認定資格を取得するために行われるガイド実地研修の検定員を養成するためのもので、北海道から九州までの山岳ガイド十八名を対象に行われました。



受講の様子

講演では、上高地の木材利用や牧場利用等の歴史を紹介し、上高地がかつては人々のくらしの基盤として利用されていたことや、大正五年の保護林設定以降、上高地が現在のように自然保護を重視して管理されるようになったこと等を紹介しました。また、施業実施計画を参考に図面の見方や森林管理局では上高地国有林をどのように管理しているかを紹介しました。

受講者からは「過去の土地利用の歴史がガイドのヒントになる点が多い」、「現在の上高地も林班・小班毎に緻密に管理されていることに感心した」等の感想が聞かれました。

名古屋木材組合の

国有林視察会を開催

「名古屋事務所」十月十七日、名古屋木材組合（鈴木和雄組合長）の研修として、間伐実行現場（段戸国有林）視察会を開催しました。

当日は、台風二十六号通過の影響もなく、台風一過の晴天となり、絶好の見学日和となりました。

名古屋事務所では、愛知県内の木材業界関係者を対象に、国有林への理解を深めていただくこと、川上と川下の連携を強化することなどを目的に、名古屋木材組合と検討を重ね企画したものです。参加した約五十名は、原木市場、製材業者、チップ製造業、建設業、工務店等々

の職員で、日頃から木材に関わる仕事をしていても、間伐作業・森林整備の実際の現場作業を見るのは初めての方々がほとんどでした。



高性能林業機械による造材等に、驚く参加者

間伐実行現場では、愛知森林管理事務所との協力を得て、スイングヤードによる集材、プロセスサによる造材作業の工程を見学しました。高性能林業機械による間伐作業の一連の流れを見た参加者は、「最近の森林作業の様子がよくわかった。」「あつという間に丸太になるのに驚いた。」「と感嘆の声を上げていました。」その後、森林作業道の重要性、木材の流通、木材利用の推進などについて様々な質問が出ましたが、山元次長はじめ担当者らが丁寧に説明をする等、有意義な意見交換の時間となりました。



参加者からの様々な質問に答える山元次長

昼食は、紅葉が始まりかけた段戸湖畔でとり、裏谷原生林の散策を楽しみました。「愛知県にこんな原生林があるとは知らなかった。家族でまた来よう。」という参加者もいました。

午後は、設楽町役場新庁舎を訪問しました。同新庁舎は平成二十六年一月より運用開始される予定で、木造平屋建て庁舎はほぼ完成していました。役場、議場、図書館、子供センターなどからなり、設楽町産材をふんだんに使用した造りとなっています。今後、林業の盛んな地域のシンボルとして、町民の誇りとなる庁舎になることを祈り、帰路につきました。

参加者からは、「同じ木材を扱う仕事をしていながら、材木がどうやって生産されるのか見たことがなかった。今回実

際に目で見ることでできて非常に有意義であった。」「これからも、このような見学会を続けてほしい。」との感想や意見も寄せられました。

名古屋事務所では、こういった意見に答えるために、今後も川下の方々には森林を見ていただき、国有林のPR並びに木材利用の推進に努めていく考えです。



町の木材をふんだんに使用した設楽町新庁舎の事務室

中学生の職場体験学習

【東濃署】十月二十三日から二十五日までの三日間、中津川市立付知中学校二年生の生徒二名が東濃森林管理署において、職場体験学習を行いました。

あいにく台風二十七号の接近により、



業務服に身を包み懸命に取り組む生徒

空模様を見ながらの体験となりましたが、川上国有林で林道工事箇所の現場監督業務の補助及び林分調査、付知裏木曾国有林で生産事業の確認を行ったほか、署内では自分たちで測量した成果をパソコンに取り込んだものの図面作成、反射実体鏡を用いた空中写真への国有林・林班界の書き込みなどを行いました。

参加した青山君と加地君は「祖父が国有林で働いていたので林業の仕事に憧れています。」「大工の仕事を将来継ぎたいので木や森林について知りたいです。」と、しっかり目的を持ってどの業務も懸命に取り組んでいました。体験後は「森林管理署の仕事は簡単ではありませんでしたが、祖父の仕事を手伝ってみたいと林業に慣れていきたいです。」「森林管理署は森林の保育など山での仕事が大だと思っていました。」「様々な仕事があるのにビックリしました。」「挨拶の大切さを